＜別紙１＞

# 第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

②施設・事業所情報

| | | | |
|---|---|---|---|
| 名称：いずみ反町保育園 | | 種別：認可保育所 | |
| 代表者氏名：樋渡　利枝 | | 定員（利用人数）：本園４８名,分園１８名 | |
| 所在地：本園　〒221-0842　横浜市神奈川区泉町５－１０６<br>分園　〒221-0831　横浜市神奈川区上反町２－２７－６ | | | |
| TEL：本園　０４５－３２３－００５５<br>分園　０４５－３２３－０３２２ | | ホームページ：<br>https://izumi-yokohama.net | |
| 【施設・事業所の概要】 | | | |
| 開設年月日：２００９年4月1日 | | | |
| 経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人いずみ | | | |
| 職員数 | 常勤職員：　１８名 | 非常勤職員　１１名 | |
| 専門職員 | 保育士　１８名 | 調理員　４名 | |
| | 栄養士　２名 | | |
| | 看護師　１名 | | |
| 施設・設備の概要 | 保育室５ | 事務室２、給食室２ | |
| | | | |

③理念・基本方針

＜保育目標＞
- 明るくあいさつや返事のできる子ども
- やさしく思いやりのある子ども
- 友だちと仲良く遊ぶ子ども
- 自分のことは自分でできる子ども
- よく考えて工夫する子ども
- 健康で元気な子ども
- 最後まで頑張れる子ども

＜園の特徴＞
- ひとりひとりを大切にした少人数の保育を目指します。
- お子様、保護者、ご家族と交流を深める年間行事を予定しています。
- 交通量が少なく、日当たりの良い静かな環境です。
- 園外保育は台町公園、反町公園、高島台公園、沢渡中央公園など多くの公園に出かけています。
- 園だより、献立表を毎月配布、アレルギー食にも対応します。
- 心と体を育てる栄養と豊富なメニューの給食、月齢に合わせたきめ細やかな離乳食を、栄養士が献立を作り調理します。
- 楽しく充実した１日の保育プログラムにそった保育を行います。
- お子様の１日の様子を連絡帳に毎日記入します。
- ３歳児から文字、数、英語のお勉強を楽しく始めます。また、４歳児からピアニカの指導も行います。
- 市立青木小学校との連携、交流をしています。
- 地域の子育て支援に積極的に取り組みます。

・保育相談、個人面談を随時行っています。
・防犯対策はセコム㈱と契約、監視カメラ・通報装置などを設置しています。
・AEDを設置しています。

④施設・事業所の特徴的な取組

〇２～５歳児は本園で、０～1歳児は分園にて、各クラス１２人前後の少人数の保育を実践している。一人ひとりの子どもを園全体で把握し、成長過程にあった保育を行っている。子どもたちが楽しく１日を過ごすことができるよう、一人ひとりの年齢に応じたきめ細やかな保育を行うとともに、年齢を超えた交流ができるよう、保育室間の出入りを自由にしている。また、障害のある子どもや医療的配慮が必要な子どもを受け入れ、保育士、看護師、栄養士が連携して保育にあたっている。
〇今年度より、各書面のICT化に取り組み、連絡帳や園だより、お知らせなどを、アプリで配信している。連絡帳には、日々の子どもの活動の様子が分かる写真も一緒に配信しており、保護者からも子どもの様子がわかり安心との声が多くあがっている。

⑤第三者評価の受審状況

| | |
|---|---|
| 評価実施期間 | ２０２３年6月１日（契約日）　～<br>２０２４年2月９日（評価結果確定日） |
| 受審回数（前回の受審時期） | ３回（２０１８年度） |

⑥総評

◇事業所の特色や努力、工夫していること、事業所が課題と考えていること等
〇いずみ反町保育園は最寄り駅から徒歩５分の住宅街にあり、各クラス１２人前後の家庭的な雰囲気の中で保育を行っている。本園はマンションの１階に位置し、園庭は分園の園庭と共有しているが広くないことから、近隣の公園の「お散歩マップ」を作成して、天気の良い日は積極的に外に出かけ、自然に触れて、子どもたちはのびのびと遊んでいる。
〇子どもたちが楽しく充実した１日を過ごすことができるよう、四季折々の伝統行事を開催する他、ファミリー遠足や夕涼み会、ファミリー運動会、クリスマス発表会、作品展など、保護者も参加できるイベントも多く企画し、実施している。
〇子どもの発達の状況はそれぞれ異なるため、一人ひとりの状況を把握し、職員間で共有して個人を尊重した対応を行っている。まだ言葉のやりとりが不十分な子どもには、保育士が声掛けをしながらその子どもの表情を見て、やりたいことを見つけたり、クラス保育の中で他の友達の中に入れない子どもには優しく声掛けをしながら、保育士も一緒に遊ぶなど、一人ひとりに寄り添った保育を行っている。
〇各クラス、手の届くところに本棚を設置し、玩具も自分で出せるように置いている。子どもたちは、室内遊びの時は各自好きな物を持ち、やりたい仲間と自主的に遊んでいる。ごっこ遊びに夢中になる子ども、プラレールに夢中になる子どもなど、さまざまである。４～５歳児になると、自分が作ったものと友達が作ったものを合体させ、大きな作品を作るなど、共同での遊びを楽しんでいる。運動会や発表会に、どんなものがやりたいか、子どもたちと一緒に話し合い、企画し、実際にイベントを行っている。
〇0歳児は現在６人おり、分園で２人の職員と、フリーの職員１人が関われるよう配置している。十分に愛着関係を作り、安心して園生活を送ることができるようにしている。一人ひとりの生活リズムに合わせ、午前、午後と午睡する子どもには、静かな環境を整え対応している。情緒の安定を第一に考え保育にあたっている。遊びの中からいろいろなものに興味、関心が持てるよう、室内での遊び、箱型バギーに乗っての園外での遊びで、自然や人との関わりを体験できるようにしている。
〇分園の１歳児の保育は、表情や態度、目線などから子どもの気持ちを感じ取ってい

る。昼食前に眠くなって泣いてしまう子どもには、安心して寝ることができるように対応し、受け入れ時に不安定な子どもには、保護者から家の様子を聞き、個々の気持ちに寄り添いながら関わると同時に、体調確認もしつつ、日中の様子を保護者と共有するようにしている。遊びの中では、保育士が一緒に関わることで、安心して遊びができるようにしている。また子ども同士の関わりでも、保育士が仲立ちをして、遊びの輪を広げている。食事、睡眠、着脱など、自分でやろうとする気持ちを大切にしながら保育を進めている。２歳になると本園での保育になり、今までと違いお兄ちゃんお姉ちゃんを見て、同じようにやってみたいなど自主性や自我の目ざめが見られるようになってきている。保育士は援助を行いながらも優しく見守り、できた時は子どもと一緒に保育士も喜び合っている。

〇３歳児は日常生活のことは自分でできるようになってくるが、失敗したりすることもある。そのような時は、この次はきっとできるよと励ましながら、一緒にやってみたりしている。思いを表出できない子どもには、保育士の方から[こんなこと、やってみる？」など声掛けをしながら、やりたいと思っていることを一緒にやって対応している。４歳児は相手の子どもに対しての思いやりが考えられるように、５歳児は友達と共同で遊んだり、協力し合えるよう保育を行っている。日常的に異年齢との関わりをもつことで、小さい子どもへの気持ちが自然に養われるようになっている。

〇食育に力を入れており、０，１歳児には果物や野菜に触れる機会を作り、小さいうちから食材に興味、関心が持てるよう取り組んでいる。幼児クラスでは野菜を栽培して、収穫をしたものを給食で調理をしてもらっている。定期的に「ご当地メニュー」として神奈川県、青森県、福岡県などの郷土料理を提供している。また、月１回「絵本おやつ」として、「白クマちゃんのホットケーキ」「お化けの天ぷら」など、絵本の中に出てくるおやつを提供している。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

第三者評価の受審にあたり、職員と振り返ることによって、不十分なところが明確となり、改めて考える良いきっかけとなりました。改善できるところ、職員間でもっと共有しなければならないことなど、見直しをしつつ、子ども達にとって、保護者にとって、職員にとって、良い環境づくりをしていきたいと思います。

⑧第三者評価結果

別紙２のとおり